
IBM ThinkPad 560E の追加情報

IBM ThinkPad 560Eをお買い上げいただきありがとうございます。

本書は、IBM ThinkPad 560E (以降、本書中では 560E または ThinkPad と表示します) に関する情報で、同梱の *ThinkPad 560 ユーザーズ・ガイド*に記載されていない追加情報を説明しています。

『Windows 95 OEM Service Release 用のソフトウェアの導入』では、Windows 95 OEM Service Release 用のソフトウェアの導入方法について説明しています。Windows 95 に関するソフトウェアを導入するときはこの情報をご使用ください。

『Windows NT ワークステーション バージョン 3.51 または 4.0 用のソフトウェアの導入』では、Windows NT ワークステーション バージョン 3.51 または 4.0 を ThinkPad に導入する方法と Windows NT 用のソフトウェアの導入方法について説明しています。

『OS/2 Warp 用ソフトウェアの導入』では、OS/2 Warp V3 またはそれ以降に関するソフトウェアの導入方法について説明しています。

『赤外線通信機能を使う』では、赤外線通信機能とそのデバイス・ドライバの導入方法について説明しています。

『SVGA ビデオ・モードの使用』では、SVGA ビデオ・モードの使用方法について説明しています。

『ハード・ディスク・パスワード』では、ハード・ディスク・パスワードについて説明しています。

『外付けモニターの使用』では、接続した外付けモニターに障害が発生した場合の調整方法について説明しています。

『その他の情報』では、電源スイッチの操作、ディスプレイの機能の変更、FaxWorks の使用方法、ATA カードを使用して、サスペンドまたはレジューム・モードへの移行方法、赤外線通信機能の変更、メモリー容量の増加の変更、DIMM の取付けに関する変更、メモリーの変更、サスペンド・モードの使用方法についての補足、DSTN モデルに関する制限事項などについて説明しています。

本書は *ThinkPad 560 ユーザーズ・ガイド* とともにご使用ください。

商標

本書において使用されている次の用語は、米国および他国の IBM 社が所有している商標です。

IBM
OS/2

ThinkPad

Windowsは、Microsoft Corporation の商標です。

二重のアスタリスク(**)が付いているその他の社名、製品名、サービス名は、他社の商標またはサービス・マークです。

第 1 版 (1997 年 4 月)

本書において、日本では発表されていない IBM 製品 (機械およびプログラム)、プログラミング、およびサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、IBM がこのような IBM 製品、プログラミング、およびサービスを必ずしも日本で発表する意図であることを示すものではありません。

原 典	V430-7406-00 Additional Information for the IBM ThinkPad 560E Computer
発 行	日本アイ・ビー・エム株式会社
担 当	ナショナル・ランゲージ・サポート

第 1 刷 1997 年 4 月

Copyright International Business Machines Corporation 1997. All rights reserved.

Translation: Copyright IBM Japan 1997

Windows 95 OEM Service Release 用のソフトウェアの導入	1
導入されている Windows 95 のバージョンの確認	1
Windows 95 セットアップ・ディスクの作成	1
Microsoft Windows 95 の導入	2
Windows 95 用 ThinkPad ディスプレイ・ドライバーの導入	2
Windows 95 用 ThinkPad 機能設定プログラムの導入	3
Windows 95 用 PCMCIA サポートの導入	4
Windows 95 用の AudioDrive サポート・ソフトウェアの導入	5
Windows NT ワークステーション バージョン 3.51 または 4.0 用の ソフトウェアの導入	7
Microsoft Windows NT の導入	9
Windows NT 用のディスプレイ・ドライバーの導入	10
外付けモニターの使用	13
IBM PCMCIA ネットワーク・デバイス・ドライバーの導入	15
Windows NT 用の ThinkPad 機能設定プログラムの導入	18
Windows NT 用の AudioDrive サポート・ソフトウェアの導入	19
OS/2 Warp 用ソフトウェアの導入	22
OS/2 Warp を導入する前に	22
OS/2 Warp V3 に関する考慮事項	24
OS/2 Warp バージョン 4 用の ESS AudioDrive サポート・ソフト ウェアの導入	25
赤外線通信機能を使う	27
SVGA ビデオ・モードの使用	31
ハード・ディスク・パスワード	34
ハード・ディスク・パスワードの設定	35
ハード・ディスク・パスワードの入力	36
ハード・ディスク・パスワードの変更	36
ハード・ディスク・パスワードの消去	38
外付けモニターの使用	39
その他の情報	39
電源スイッチの使用	39
ディスプレイ機能の変更	39
OS/2 バージョン 4.0 での OS/2 Fax(FAXWORKS) の使用方法	40
Windows95 で ATA カードを使用したサスペンドまたはレジュー ム・モードへの移行	40
赤外線通信機能の変更	40

メモリー容量の増設に関する変更	41
DIMM 取付けに関する変更	41
メモリーの変更	42
サスペンド・モードの使用	42
DSTN モデルに対する制限	42

Windows 95 OEM Service Release 用のソフトウェアの導入

ThinkPad 560E に事前導入されている Windows 95 版は Windows 95 OEM Service Release 2 です。

Windows 95 の再導入用 CD-ROM をご使用の場合は、別冊の『Windows 95 の再導入について』をご覧ください。

導入されている Windows 95 のバージョンの確認

ThinkPad に導入されている Windows 95 のバージョンによって、OEM Service Release が導入済みかを確認することができます。導入されている Windows 95 のバージョンを確認する手順は次のとおりです。

- 1 システムを始動します。
- 2 Windows 95 デスクトップのマイ コンピュータフォルダをオープンします。
- 3 コントロール パネルをオープンします。
- 4 システムをオープンします。
- 5 「システムのプロパティ」の「情報」タブに記載された Windows 95 のバージョン番号を確認します。

システム:

```
Microsoft Windows 95  
4. .xxx x1
```

バージョンが “4.00.950 B” (Windows 95 OEM Service Release 2) またはこれ以降の場合には、ここに記載された情報を使用してください。その他の場合は、Windows 95 用ソフトウェアの導入については ThinkPad のユーザズ・ガイドを参照してください。

Windows 95 セットアップ・ディスクの作成

バックアップ用の Windows 95 セットアップ・ディスクを作成していない場合は、次の手順に従って作成します。

¹ 番号 xxx x は、Windows 95 のバージョンを示します。

- 1 Windows 95 デスクトップのスタートをクリックします。
- 2 プログラムを選択します。
- 3 アクセサリを選択します。
- 4 システム ツールを選択します。
- 5 **Create System Disks** を選択します。
- 6 画面の指示に従ってください。

Microsoft Windows 95 の導入

Windows 95 を導入するには、Windows 95 ソフトウェアに付属の説明書を参照してください。

Windows 95 用 ThinkPad ディスプレイ・ドライバーの導入

Windows 95 用の ThinkPad ディスプレイ・ドライバーを導入する手順は次のとおりです。

- 1 マイ コンピュータをオープンします。
- 2 コントロール パネルをオープンします。
- 3 画面をオープンします。
- 4 「ディスプレイの詳細」タブをクリックします。
- 5 詳細プロパティをクリックします。
- 6 アダプタータブの変更をクリックします。
- 7 ディスク使用をクリックします。
- 8 ディスケット・ドライブに、Windows 95 用ビデオ・サポート・ディスクケットを挿入します。
- 9 パスが A:¥ に設定されていることを確認してから、**OK** をクリックします。
- 10 **IBM ThinkPad (Cyber9385/82) PCI** が選択されていることを確認します。

- 11 OK をクリックします。
- 12 「モニター」タブをクリックします。
- 13 変更をクリックします。
- 14 すべてのデバイスを表示を選択します。
- 15 ラップトップ ディスプレイ パネル (800 x 600) をクリックします。
- 16 OK をクリックします。
- 17 閉じるをクリックします。
- 18 OK をクリックして、リフレッシュ・レートを調整します。
- 19 「確認」ダイアログのはいをクリックします。
- 20 画面用のカラー・パレット、デスクトップ領域、およびフォント・サイズ・パラメータを選択します。
- 21 閉じるをクリックします。
- 22 画面上の指示に従ってください。ディスプレイ・ドライバーの変更を有効にするために、Windows 95 を再始動するようにプロンプトが表示されます。

外付けモニターの使用の詳細については *ThinkPad ユーザーズ・ガイド* を参照してください。

Windows 95 用 ThinkPad 機能設定プログラムの導入

Windows 95 用の ThinkPad 機能設定プログラムを導入する手順は次のとおりです。

- 1 Windows 3.1/95 用ユーティリティー・ディスクレットをディスクレット・ドライブに挿入します。
- 2 スタートをクリックします。
- 3 ファイル名を指定して実行をクリックします。
- 4 a:installw と入力します。

5 OKをクリックします。

6 画面上の指示に従ってください。

導入オプション・メニューでパーソナライゼーション エディタの導入を選択すると、DOS,パーソナライゼーション用ユーティリティー・ディスクレットを挿入するようにプロンプトが表示されるので、事前に必要なディスクレットを準備します。(個人データの作成を終了したら、そのデータをこのディスクレットに保存する必要があります。Windows 3.1/95 用ユーティリティー・ディスクレットには、個別設定データをコンピュータの不揮発性メモリーに保存する、このディスクレットのもつ機能がありません。)

導入オプション・メニューでパーソナライゼーション・エディターの導入を選択すると、このディスクレットを挿入するように指示されます。

Windows 95 用 PCMCIA サポートの導入

Windows 95 用 PCMCIA サポートを導入する手順は次のとおりです。

1 マイ コンピュータをオープンします。

2 コントロール パネルをオープンします。

3 システムをオープンします。

4 「デバイス マネージャ」タブをクリックします。

5 PCMCIA ソケットの + マークをクリックします。

6 **PCIC or compatible PCMCIA controller**または**Cirrus Logic PCIC compatible PCI to PCMCIA bridge on IBM system** のどちらかをダブルクリックします。

7 「ドライバ」タブをクリックします。

8 ドライバの更新をクリックします。

9 Windows 95 用 PC カード・ディレクター・ディスクレットをディスクレット・ドライブに挿入します。

10 「デバイス ドライバ ウィザード」パネルで、はいを選択します。

- 11 次へ> をクリックします。
- 12 完了をクリックします。「ファイルのコピー」パネルが、Windows 95 導入ディスクセットまたは CD-ROM の場所を聞いてきます。
- 13 Windows 95 が IBMCSS01.VXD または IBMPCDIF.VXD のコピーを開始するには、ファイルのコピー元: を A:¥ に変更します。
- 14 **OK** をクリックします。IBMCSS01.VXD または IBMPCDIF.VXD がディスクセットからコピーされ、導入が開始されます。
- 15 導入が完了した後、ThinkPad を再始動します。

これで PCMCIA デバイス・ドライバーの導入は完了です。

Windows 95 用の AudioDrive サポート・ソフトウェアの導入

Windows 95 の導入中に、コンピュータによっては Windows 95 が AudioDrive デバイスを検出し、そのサポート・ソフトウェアを自動的に導入します。ただし、ThinkPad コンピュータの AudioDrive デバイスではこれは実行されません。AudioDrive サポート・ソフトウェアを個別に導入する必要があります。次の手順で実行してください。

- 1 マイ コンピュータをオープンします。
- 2 コントロール パネルをオープンします。
- 3 システムをオープンします。
- 4 「デバイス マネージャ」タブをクリックします。
- 5 **ESS ES 1688 AudioDrive** をダブルクリックします。
- 6 「ドライバ」タブをクリックします。
- 7 ドライバの更新をクリックします。
- 8 Windows 95 用 AudioDrive サポート・ディスクセットをディスクセット・ドライブに挿入します。
- 9 “ドライバを自動的に検出しますか?” の質問に対して、はいを選択します (「デバイス ドライバ ウィザード」パネル上で)。

- 10** 次へ>をクリックします。
- 11** 完了をクリックします。
- 12** 「ディスクの挿入」パネルが表示されます。**OK** をクリックします。
- 13** 「ファイルのコピー」パネルが、Windows 95 導入ディスクセットまたは CD-ROM の場所を聞いてきます。
- 14** 「ファイルのコピー元」に A:¥ と入力します。
- 15** **OK** をクリックします。導入が開始されます。
- 16** 導入が完了した後、ThinkPad を再始動します。

Windows NT ワークステーション バージョン 3.51 または 4.0 用のソフトウェアの導入

ここでは、Windows NT ワークステーション バージョン 3.51 または 4.0 (以降、本書中では、*Windows NT* と表示) と ThinkPad 用のそのデバイス・ドライバーの導入手順について説明します。特に記述のない限り、指示はバージョン 3.51 と 4.0 に共通です。

重要

オペレーティング・システムやデバイス・ドライバーを再導入する前に、ThinkPad に導入済みのディスクット・ファクトリー・プログラム (ディスクット・バックアップ・プログラム) を使用して、すべての導入ディスクットを必ず作成してください。

ThinkPad に Windows NT を導入する前に、次に示す方法で、IBM から更新ソフトウェアを入手する必要があります。

最新の修正プログラムの入手方法

インターネット

– WWW サーバー

日本アイ・ビー・エム(株) はファイル・ライブラリーで提供しています。ファイル・ライブラリーの URL は次のとおりです。

<http://www.ibm.co.jp/aspc/file.html>

必要なソフトウェアを探すには、“HW サポート・プログラム”の ThinkPad プログラム・リストからファイルを選択します。

パソコン通信

– NIFTY-Serve

ソフトウェア・ライブラリー (FIBMFEEL フォーラム/データ・ライブラリー/日本 IBM 製品情報ライブラリ)で提供しています。

1. GO コマンドで FIBMFEEL と入力します。
2. データ・ライブラリーの 7 番 (日本 IBM 製品情報ライブラリ) を選択します。
3. 一覧から必要なものを選択して、ダウンロードします。

– 日経 MIX

ソフトウェア・ライブラリー (エリア名: IBM.PCC) で提供しています。

1. 初期メニューで 3.(Listings) を選択します。
2. area と入力します。
3. area name? と聞かれたら、IBM.PCC と入力します。
4. 必要なものを選択して、ダウンロードします。

– People

ソフトウェア・ライブラリー (IBM/PC 修正プログラム/周辺機器関連ライブラリー) で提供しています。

1. GO コマンドで IBM と入力します。
2. PC 修正プログラムを選択します。
3. 周辺機器関連ライブラリーを選択します。
4. 一覧の中から必要なものを選択して、ダウンロードします。

Windows NT を ThinkPad 上で使用するために、次のものを導入します。

Microsoft Windows NT ワークステーション バージョン 3.51 または 4.0 以降 (9 ページ)

ThinkPad Windows NT ディスプレイ・ドライバー (10 ページ)

IBM トークンリング PC カード、または IBM イーサネット PC カードを使用する場合は、オプションで PCMCIA ネットワーク・デバイス・ドライバー (15 ページ)

Windows NT 用 ThinkPad 機能設定プログラム (18 ページ)

Windows NT 用 ESS オーディオ・ドライバー機能 (19 ページ)

Microsoft Windows NT の導入

Windows NT を導入する前に、次の項目に目を通してください。

Windows NT の導入ガイドをよく読んでください。

Windows NT は、OS/2 Warp と二重ブート構成では ThinkPad には導入できません。OS/2 Warp を使用して、Windows NT を導入しようとする場合は、ThinkPad から OS/2 Warp とすでに導入済みの OS/2 アプリケーションをすべて削除します。

Windows NT と一緒に OS/2 Warp も続けて使用する場合は、OS/2 Warp ブート・マネージャーを使用する必要があります。詳しくは、Windows NT 導入ガイドを参照してください。

Windows NT ワークステーション バージョン **3.51** を導入する場合：Windows NT をカスタム・セットアップで導入し、ビデオ・ディスプレイを標準 **VGA (640 x 480、16 色)** に指定します。このように指定しないと、Windows NT 3.51 を導入して最初に始動したとき、画面が真っ白になる可能性があります。

PC カード・ハード・ディスク・ドライブ (IBM 105MB または 260MB ハード・ディスク・ドライブ、Integral Peripherals Viper 105MB または 260MB ディスク、Maxtor Mobile Max131、もしくはその他の PCMCIA ATA カードなど) を使用する必要がある場合、Windows NT 3.51 の導入を始める前に、これを PC カード・スロットに挿入しておきます。

Windows NT 3.51 は、PCMCIA ハード・ディスクを導入時にだけ識別し、必要なデバイス・ドライバーをセットアップします。

Windows NT は、内蔵 CD-ROM ドライブを使用して導入できます。ただし、ThinkPad に CD-ROM ドライブが内蔵されていない場合は、次の 2 つの代替方法のどちらかを使用して Windows NT を導入してください。

DOS 環境の外付け CD-ROM ドライブの使用の場合:

DOS 環境で接続する外付け CD-ROM ドライブがある場合は、DOS で Windows NT を次のように導入します。

1. Windows NT の CD を外付け CD-ROM ドライブに挿入します。
2. CD-ROM ディレクトリーに入り、次に ¥I386 ディレクトリーに入ります。たとえば、CD-ROM ドライブがドライブ D の場合、D:¥I386 になります。
3. コマンド・プロンプトで **WINNT** と入力し、 `Enter` を押します。
たとえば、D:¥I386>winnt
4. 画面の指示に従ってセットアップを完了します。

ネットワーク・サーバーの使用の場合:

最初に Windows NT マスター・ソース・ファイルをネットワーク・サーバー上の共有ドライブにコピーすることにより、Windows NT を複数のコンピュータに導入できます。ThinkPad を DOS LAN リクエスターなどでネットワークに接続してから、DOS コマンド・プロンプトでネットワーク・サーバーから ThinkPad にファイルを導入できます。

詳しくは、Windows NT の導入ガイドを参照してください。

Windows NT の導入については、Windows NT の導入ガイドを参照してください。

Windows NT 用のディスプレイ・ドライバーの導入

いろいろな解像度と色数構成を表示するために、ディスプレイ・ドライバーを導入します。

Windows NT ワークステーション バージョン 3.51 用の導入

Windows NT 3.51 用のディスプレイ・ドライバーの導入手順は次のとおりです。

- 1 Windows NT を開始し、管理者の権限でログオンします。
- 2 コントロール パネルをオープンします。

- 3 画面をオープンします。
- 4 「ディスプレイの設定」メニューのディスプレイの変更をクリックします。
- 5 「ディスプレイの種類」メニューの変更をクリックします。
- 6 「デバイスの選択」メニューのその他をクリックします。
- 7 Windows NT 3.51 用のビデオ・サポート・ディスクレットをディスクレット・ドライブに挿入します。選択リストにディスプレイ・デバイスが表示されます。
- 8 選択リストのディスプレイ・デバイスの**IBM ThinkPad (Cyber 9320/9385/9382)**を選択します。
- 9 組み込むをクリックします。
- 10 導入後、Windows NT を再始動して変更を有効にします。

解像度またはリフレッシュ・レートの変更

Windows NT を再始動した後は、省略時値としてディスプレイ解像度が 640 x 480 で色数が 256 に設定されています。必要に応じて、次の手順で解像度またはリフレッシュ・レートの値が変更できます。

- 1 コントロール パネルをオープンします。
- 2 画面をオープンします。
- 3 「ディスプレイの設定」メニューのモードの一覧をクリックします。
- 4 リストから 1 つのモードを選択します。
- 5 テストをクリックし、選択したモードが正しく表示されることを確認します。
- 6 Windows NT を再始動して変更を有効にします。

Windows NT ワークステーション バージョン 4.0 用の導入

Windows NT 4.0 用のディスプレイ・ドライバーの導入手順は次のとおりです。

- 1 Windows NT を始動し、管理者の権限でログオンします。

- 2 マイ コンピュータをオープンします。
- 3 コントロール パネルをオープンし、次に画面をオープンします。
- 4 「画面のプロパティ」メニューの「ディスプレイの設定」タブをクリックし、次にディスプレイの種類をクリックします。
- 5 「ディスプレイの種類」メニューの変更をクリックします。
- 6 ディスク使用をクリックします。
- 7 Windows NT 4.0 用ビデオ・サポート・ディスクセットをディスクセット・ドライブに挿入し、**OK** をクリックします。ディスプレイ・デバイスの選択リストが表示されます。
- 8 選択リストのディスプレイ・デバイスから、**IBM ThinkPad (Cyber9320/9382/9385)**を選択し、インストールをクリックします。
メッセージ
“サードパーティーのドライバーをインストールしようとしています。”
が画面に表示されます。
- 9 続行しますか? で、はいをクリックし、画面の指示に従います。
- 10 導入が完了した後、Windows NT を再始動して変更を有効にします。

解像度またはリフレッシュ・レートの変更

Windows NT を再始動した後は、省略時値としてディスプレイ解像度が 640 x 480 で色数が 256 に設定されています。必要に応じて、次の手順で解像度またはリフレッシュ・レートの値が変更できます。

- 1 マイ コンピュータを、オープンします。
- 2 コントロール パネルをオープンし、次に画面をオープンします。
- 3 「画面のプロパティ」メニューで「ディスプレイの設定」タブをクリックします。
- 4 モードの一覧をクリックし、解像度、色数、およびリフレッシュ・レートを選択します。

- 5 テストをクリックし、選択したモードが画面に正しく表示されることを確認した後、**OK** をクリックします。
- 6 導入が完了した後、Windows NT を再始動して、変更を有効にします。

外付けモニターの使用

ThinkPad に外付けモニターを接続する場合は、接続するモニターで SVGA ビデオ・ドライバーを使用するために、次の手順を実行してください。

Windows NT 3.51 用

- 1 Windows NT を始動し、管理者の権限でログオンします。
- 2 「OS ローダー」パネルが表示されると、オペレーティング・システムを選択するように指示されます。Fn と F7 を同時に押して、画面を CRT 専用モードにします。
- 3 コントロール パネルをオープンします。
- 4 画面をオープンします。
- 5 「ディスプレイの設定」メニューで、モード一覧をクリックします。
- 6 リストから 1 つのモードを選択します。
- 7 テスト・ボタンをクリックし、モニター上に選択したモードが正しく表示されていることを確認します。
- 8 導入が完了した後、Windows NT を再始動して、変更を有効にします。

Windows NT 4.0 用

- 1 Windows NT を始動し、管理者の権限でログオンします。
- 2 「OS ローダー」パネルが表示されると、オペレーティング・システムを選択するように指示されます。Fn と F7 を同時に押して、画面を CRT 専用モードにします。
- 3 マイ コンピュータをオープンします。
- 4 コントロール パネルをオープンし、次に画面をオープンします。

- 5 「画面のプロパティ」メニューの「ディスプレイの設定」タグをクリックします。
- 6 モードの一覧をクリックし、高解像度モード (**1024 × 768**)、色数、およびリフレッシュ・レートを選択します。
- 7 テストをクリックし、選択したモードが画面に正しく表示されることを確認します。
- 8 **OK** をクリックします。

Windows NT がコンピューターを再始動するようにプロンプトします。

ヒント

Windows NT 用の ThinkPad 機能設定プログラムを導入する場合、このプログラムを使用して、ディスプレイ出力タイプを CRT (外付けモニター) 専用、LCD (液晶ディスプレイ) 専用、またはその両方に切り換えられます。

外付けモニターの画面にフリッカー・ノイズが現れたり、画像が安定しない場合、次の手順に従ってディスプレイのリフレッシュ・レートを調整できます。

1. ThinkPad 機能設定プログラムを始動し、「ディスプレイ」メニューをオープンします。
2. 詳細設定をクリックします。
3. 使用している SVGA モニター・タイプを指定し、適切なリフレッシュ・レートを選択します。サポートされるリフレッシュ・レートはモニターのタイプによって決まります。
4. **OK** をクリックします。

Windows NT 4.0 を使用している場合、個別のビデオ・モード構成プロファイルを作成できます。たとえば、LCD モード用に 1 つ、CRT モード用に別のものを 1 つ作成できます。詳しくは、Windows NT ワークステーション ファースト・ステップ・ガイドを参照してください。

IBM PCMCIA ネットワーク・デバイス・ドライバーの導入

PCMCIA アダプター・カード・デバイス・ドライバーの導入手順は、Windows NT のバージョンにより異なります。使用するWindows NT のバージョン別の指示に従ってください。

Windows NT ワークステーション バージョン 3.51 用の導入

Windows NT 3.51 では、標準では IBM PCMCIA トークンリング・カード用のドライバーは提供されません。

これらのトークンリング・カードを使用する場合は、IBM PCMCIA トークンリング・デバイス・ドライバーを導入します。Windows NT PCMCIA トークンリング・デバイス・ドライバー・ファイルを入手するには、8 ページの“最新の修正プログラムの入手方法”を参照してください。

デバイス・ドライバーを導入する手順は次のとおりです。

注意

ドライバーを導入する前に、まず Windows NT ワークステーションバージョン 3.51 Service Pack #4 またはそれ以降のリリースを導入します。

- 1 「プログラム マネージャ」メニューのメインをクリックします。コントロール パネルをクリックし、次にネットワーク をクリックして、「ネットワークの設定」画面のアダプタ カードの追加をクリックします。
Windows NT がサポートするネットワーク・アダプターのリストが表示されます。
- 2 ドロップダウン リスト・アイコンをクリックし、リストの下部までスクロールして<その他> 各メーカーのディスクが必要を選択します。
- 3 プロンプトが表示されたら、デバイス・ドライバー・ディスクをディスク・ドライブに挿入します。画面上の指示に従ってください。
- 4 アダプターの追加が終了したら、**OK** をクリックし、画面の指示に従ってください。

Windows NT ワークステーション 4.0 用の導入

Windows NT 4.0 は、何種類かの IBM PCMCIA ネットワーク・アダプター・カードをサポートします。使用するアダプター・カードのネットワーク・デバイス・ドライバを導入する手順は、次のとおりです。

- 1 マイ コンピュータをオープンします。
- 2 コントロール パネルをオープンし、次にネットワークをオープンします。
- 3 「ネットワーク」メニューの「アダプタ」タブをクリックし、次に追加をクリックします。
- 4 「ネットワーク アダプタの選択」リストから、使用する PCMCIA ネットワーク・アダプターを選択します。

次の表は、オプション・リストに記載された IBM PCMCIA ネットワーク・アダプター・カード用のアダプター・ドライバー名を示します。

アダプター・カード・タイプ	オプション・リストのアダプター・ドライバー名
IBM トークンリング 16/4 PCMCIA カード CCA-I	IBM Token Ring (ISA/PCMCIA) Adapter
IBM トークンリング 16/4 PCMCIA カード CCA-II	IBM Token Ring (ISA/PCMCIA) Adapter
IBM Auto 16/4 トークンリン グ PCMCIA カード	IBM Token Ring (ISA/PCMCIA) Adapter
IBM イーサネット PCMCIA カ ード II	IBM Ethernet PCMCIA and Compatible Adapter

- 5 **OK** をクリックして、ファイルを導入します。

ファイルを格納するドライブおよびパス名を入力するようにプロンプトが表示されます。

- 6 画面上の指示に従ってください。

ネットワーク・デバイス・ドライバの導入中に、アダプター・カードのオプションのパラメータを入力するようにプロンプトが表示されます。次に、最も一般的なパラメータを示します。

IBM トークンリング 16/4 PCMCIA カード、IBM トークンリング 16/4 PCMCIA カード II、IBM Auto 16/4 トークンリング PCMCIA カードの場合:

I/O ポート・ベース・アドレス: 1 次
種類: PCMCIA
番号: 0
カード IRQ レベル: 7 または 9
メモリー・ベース: 0xCA000 またはこれ以上の値

注: I/O ポート・ベース・アドレスは ESS オーディオのアドレスと競合するので、ESS I/O アドレスを 220 から 240 に変更してください。19ページの『Windows NT 用の AudioDrive サポート・ソフトウェアの導入』を参照してください。

IBM イーサネット PCMCIA カード II の場合:

I/O ポート・ベース・アドレス: 200、260、またはこれ以上
カード IRQ レベル: 7 または 9
メモリー・ベース: 0xC8000 またはこれ以上の値

Windows NT 用の ThinkPad 機能設定プログラムの導入

注: ThinkPad 機能設定プログラムの旧バージョンをすでに導入していて、Fuel-Gauge プログラムを実行している場合は、Fuel-Gauge プログラムを閉じてから導入を始めてください。

ThinkPad 機能設定プログラムを導入する手順は次のとおりです。

- 1 Windows NT を始動します。管理者の権限でログオンします。
- 2 Windows NT 用ユーティリティー・ディスクettetをディスクettet・ドライブに挿入し、Windows NT ワークステーション バージョン 3.51 用の **Windows NT** ファイル マネージャをオープンするか、または Windows NT ワークステーション バージョン 4.0 エクスプローラを始動します。
- 3 「ファイル マネージャ」メニューのドライブ **A** を選択します。
- 4 **INSTALLN.EXE** をダブルクリックします。
- 5 画面上の指示に従ってください。

DOS,パーソナライゼーション用ユーティリティー・ディスクettetを準備します。導入オプション・メニューでパーソナライゼーション エディターを導入を選択すると、このディスクettetを挿入するように、プロンプトが表示されます。画面の指示に従ってください。

サスペンドとレジューム・オプションについて

ThinkPad 機能設定プログラムを導入すると、Windows NT でサスペンドとレジューム・オプションがサポートされます。

ただし、AC モードで作動している ThinkPad をサスペンドしようとする場合に、ドッキング・ステーションが ThinkPad に接続されていたり、PC カードが ThinkPad の PCMCIA スロットに挿入されていたりすると、ThinkPad はスタンバイ・モードになります。ネットワーク環境で ThinkPad を作動させているときに通信リンク中断や障害などの問題を避けるために、このように作動します。

ThinkPad 機能設定プログラムのパワー・モード設定を使用してサスペンド・タイマーを設定した場合、特に作動しないでタイマーの時間が切れると、ThinkPad は自動的にサスペンド・モードになります。ただし、

ThinkPad に CD-ROM ドライブが装備され、Autorun 機能が使用可能な場合、タイマーの時間が切れても ThinkPad はサスペンド・モードになります。(Windows NT 4.0 では、出荷時の Autorun 機能の省略時の設定状態は、“使用可能”です。)

この場合、サスペンド・タイマーを使用するためには、次のレジストリでキーを設定して、CD-ROM の Autorun 機能を使用不可にします。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Cdrom\
```

Autorun: (Autorun を開いて) Value data フィールドの値を 1 から 0 に変更します。

パーソナライゼーション・エディターの使用

個人データを作成してから、そのデータを ThinkPad の DOS, パーソナライゼーション用ユーティリティー・ディスクまたは Windows 95 用ユーティリティー・ディスク 2 に保存する必要があります。パーソナライゼーションを使用する前に、このディスクを準備します。Windows NT 用ユーティリティー・ディスクには、DOS, パーソナライゼーション用ユーティリティー・ディスクまたは Windows 95 用ユーティリティー・ディスク 2 で使用できる、パーソナライゼーション・データを ThinkPad の不揮発性メモリーに保存するような機能がありません。

Windows NT 用の AudioDrive サポート・ソフトウェアの導入

オーディオ・ドライバー・ディスクを使用して、Windows NT の WAVE/MIDI オーディオ機能の再生や録音ができます。

AudioDrive サポート・ソフトウェアの導入手順は、Windows NT のバージョンにより異なります。使用するバージョンの指示に従ってください。

Windows NT ワークステーション バージョン 3.51 用の導入

Windows NT 3.51 用の ESS AudioDrive サポート・ソフトウェアの導入手順は、次のとおりです。

- 1 Windows NT を始動します。管理者の権限でログオンします。
- 2 「メイン」を表示します。コントロール パネルをオープンし、次にドライバをオープンします。

- 3 「ドライバの設定」メニューの追加をクリックし、一覧にない、または更新されたドライバを選択します。
- 4 ドライブとパス名を A:¥ と指定し、**OK** をクリックします。
- 5 ドライバーとして **ESS ES 1688 AudioDrive 1.05** を選択し、**OK** をクリックします。
- 6 **ESS** ベース入出力アドレスを選択します。通常は省略時設定値の220を選択します。しかし、トークンリングを使用しているときは、省略時設定値のかわりに 240 を選択します。
- 7 **OK** をクリックします。
- 8 Windows NT を再始動して変更を有効にするようにプロンプトが表示されます。

Windows NT ワークステーション バージョン 4.0 用の導入

Windows NT 4.0 用の ESS オーディオ・サポート・ソフトウェアの導入手順は、次のとおりです。

- 1 Windows NT を始動します。管理者の権限でログオンします。
- 2 マイ コンピュータをオープンし、次にコントロール パネルをオープンします。
- 3 マルチメディアをオープンし、次にマルチメディアのプロパティをクリックします。
- 4 「デバイス」タブをクリックし、次に追加をクリックします。
- 5 「追加」メニューで一覧にない、または更新されたドライバを選択し、**OK**をクリックします。
- 6 Windows NT 4.0 ESS オーディオ・ドライバー・ディスクットをディスクット・ドライブに挿入します。
- 7 「ドライバのインストール」メニューで、ドライブとパス名を A:¥ と指定し、**OK** をクリックします。
- 8 ドライバーとして **ESS ES 1688 AudioDrive 2.00** を選択し、**OK** をクリックします。

ドライバーが導入されると、ポップアップ・メッセージが表示され、Windows NT を再始動するようにプロンプトが出ます。

9 Windows NT を再始動します。

省略時の設定の変更

割込みレベル、DMA チャンネル、または入出力ベース・アドレスなどの、ESS オーディオ・リソースの省略時の設定を変更する場合は、ThinkPad 機能設定プログラムを使用してください。

ThinkPad 機能設定プログラムでは、次のリソースを設定できます。

ベース入出力アドレス: 220 または 240 (220 が省略時値)
 割込み: 5、7、または 10 (5 が省略時値)
DMA チャンネル: 1 または 0 (1 が省略時値)

オーディオ機能をトークンリング・アダプター・カードと同時に使用する場合は、オーディオのベース入出力アドレスを 240 にすることを推奨します。

省略時の設定を変更する手順は次のとおりです。

- 1** Windows NT を始動します。管理者の権限でログオンします。
- 2** ThinkPad 機能設定プログラムを使用して省略時の設定を変更します。
- 3** Windows NT をシャットダウンして再始動します。

Windows NT の ESS オーディオ・デバイス・ドライバーは、ThinkPad 機能設定プログラムで設定したリソースを使用します。

再生と録音

アクセサリ・グループの中のサウンド・レコーダーまたはメディア・プレーヤーを使用して、WAVE ファイルの録音や再生、または MIDI サウンドの再生ができます。詳しくは、*Microsoft Windows NT ワークステーション・システム・ガイド*または*ファースト・ステップ・ガイド*を参照してください。

オーディオ・ドライバーのサスペンドまたはレジューム機能の使用

Windows NT でオーディオ・ドライバーのサスペンドまたは再生機能を使用可能にするには、最新の Windows NT の ThinkPad 機能設定プログラムを導入する必要があります。

OS/2 Warp 用ソフトウェアの導入

ここでは、OS/2 Warp 用のソフトウェアについて補足説明します。

OS/2 Warp を導入する前に

重要

OS/2 Warp を導入する前に、次の手順を実行する必要があります。そうしなければ、OS/2 の導入は停止し、導入を完了することはできません。

OS/2 Warp 導入ディスクセット 1 で OS/2 Warp の導入中に OS/2 ロゴの画面で導入が停止します。これはシステムが入出力アドレス 330 を予約するからです。このアドレス 330 においては OS/2 Warp 導入ディスクセット 1 上の Sony CD-ROM デバイス・ドライバーは次の CD-ROM ドライブがコンピューターに接続されているかどうかを見つけるためにアクセスします。

Sony CDU-31A、CDU-7305

Sony CDU-33A、CDU-7405

導入の停止を避けるためには状況に応じて次のどちらかを実行してください。

ここで述べた Sony CD-ROM ドライブを使用しているときは、OS/2 Warp のユーザーズ・ガイドの「特別なハードウェアについて」を参照してください。そして **SONY31A.ADD** デバイス・ドライバーについてのパラメーター情報を読んでください。

その後、資源の競合を避けるため ESS オーディオを使用不可にするか、ESS オーディオ・システム・リソースを変えなければならないことがあります。そのような場合は、ThinkPad 機能設定プログラムを開始し、Sony CD-ROMのリソース情報を記録します。その後、ThinkPad 機能設定プログラムの ESS オーディオに関する適切なリソースを設定します。

Sony CD-ROM ドライブを使用していない場合、次の手順を実行してください。

- 1 OS/2 Warp 導入ディスク 1 のバックアップ・ディスクを作成します。
- 2 バックアップ・ディスク内の CONFIG.SYS ファイルをオープンし、エディターを使用して次の行をコメント化します。

```
BASEDEV=SONY31A.ADD  
↓  
rem BASEDEV=SONY31A.ADD
```

- 3 バックアップ・コピー・ディスクから **SONY31A.ADD** ファイルを削除します。
- 4 今作成したバックアップ・コピー・ディスクを使用して OS/2 Warp を導入します。

OS/2 Warp V3 に関する考慮事項

OS/2 Warp V3 を使用するときは、OS/2 Warp V3 用の最新の Fix Pack を適用してください。

次の情報は Fix Pack を適用しないで OS/2 Warp V3 を導入または使用するときにだけ必要となります。

OS/2 Warp を導入するときは、*ユーザーズ・ガイド*に説明してあるようにThinPad ディスプレイ・デバイス・ドライバ (Cyber...) を導入します。そうしなければ、OS/2 全画面セッションにおいてフォントが正しく表示できない場合があります。

OS/2 Warp を導入した後、次に示すように OS/2 MMPM/2 (Multimedia Presentation Manager/2) を更新します。そうしなければ、256色モードで MMPM/2 DIGITAL VIDEO を使用して AVI ファイルを再生することができません。

MMPM/2 を更新するには、次のようにします。

1 OS/2 用 MPEG機能ディスクットを用意します。

ご使用の ThinkPad が OS/2 を事前導入したモデルであれば、ディスクット・ファクトリー・プログラムを使用してディスクットを作成します。

2 ディスクット・ドライブに OS/2 用の MPEG 機能ディスクットを挿入します。

3 OS/2 のコマンド・プロンプトで A:MINSTALL と入力し、Enter を押します。

「ポップアップ」画面上でソース・ドライブを A: から C: に変えます。

4 「機能設定」画面で OS/2 MPEG Subsystem Fixes だけを選択します。他の項目を選択していないことを確認します。

5 画面の指示に従います。

6 変更を有効にするためにコンピューターを再起動します。

このようにして MMPM/2 を更新すると AVI ファイルを再生することができます。

注: ThinkPad 560E はハードウェア MPEG デコーディングはできません。

外付けモニターを接続し、OS/2 の機能設定プログラムを使用してリフレッシュ・レートの設定を変更する場合、変更を有効にするには、コンピューターを再起動する必要があります。

WIN-OS/2 の全画面セッションで動画を再生しているときは、OS/2 プレゼンテーション・マネージャー・セッション (OS/2 画面)に切り替えないでください。

切り替える場合は、動画を停止または一時停止してから OS/2 の画面に切り替えます。

WIN-OS/2 全画面セッションを使用するときは、画面の解像度をOS/2 プレゼンテーション・マネージャーの解像度にしないでください。

OS/2 Warp バージョン 4 用の ESS AudioDrive サポート・ソフトウェアの導入

ESS AudioDrive サポート・ソフトウェアは、OS/2 Warp バージョン 4 に同梱されています。

ThinkPad に Win-OS/2 を導入していない場合は、この節は必要ありません。ThinkPad に Win-OS/2 を導入している場合は、次の手順に従って、ES1688 WinOS2/Windows Audio を導入してください。ThinkPad のユーザーズ・ガイドの“AudioDrive サポート・ソフトウェアの OS/2 Warp への導入”で説明される手順には、*従わない*でください。

- 1 ThinkPad の電源をオンにし、OS/2 を始動します。
- 2 OS/2 全画面表示コマンド・プロンプトを開きます。

注: OS/2 全画面表示を開く方法は次のとおりです。

- a) **OS/2** システムを選択します。
 - b) コマンド・プロンプトを選択してから、**OS/2** 全画面表示を選択します。
- 3 OS/2 用 AudioDrive ディスケットをディスク・ドライブに挿入します。

- 4 コマンド・プロンプトで A:EINSTALL と入力し、 Enter を押し
ます。
- 5 ソース・ドライブが A: であることを確認してください。
ThinkPad に Win-OS/2 を導入している場合は、**ES1688**
WinOS2/Windows Audio を選択してください。
Audio Drive ES1688 は、選択しないでください。
- 6 **Install** をクリックしてから、画面の指示に従ってください。
- 7 導入が完了したら、OS/2 をシャットダウンし、ThinkPad を再起動し
ます。

ESS AudioDrive 用システム・リソース

ESS AudioDrive が使用可能のとき、次のシステム・リソースは予約されま
す。ESS AudioDrive 装置とともに PC カードを使用するとき、システ
ム・リソース間での競合が起こらないように細心の注意が必要です。

システム・リソース	IRQ	I/O アドレス (Hex)	メモリー・ アドレス (Hex)	DMA チャンネル
ESS AudioDrive デバイス	無し	201, 330-331	無し	無し
ESS AudioDrive デバイス (Base)	5, 7, 10, 11、 または使用不可	0220-022F または 0240-024F	無し	1 または 0
ESS AudioDrive デバイス (FM synthesizer)	無し	388-38B	無し	無し

赤外線通信機能を使う

ThinkPad には、赤外線ポートをもつ他の ThinkPad やシステムとポイント・ツー・ポイントの通信を行うための赤外線 (IR) 通信機能があります。

赤外線通信機能は 4.0 Mbps までのデータ転送速度で IrDA**モードをサポートします。ThinkPad はもう一つの ThinkPad、または他の IrDA 規格に準拠したシステムなど、互換性のある赤外線ポートをもつ装置と通信することができます。

注: Mbps: メガビット/秒

赤外線ポートを使用可能にするには、次に示すように ThinkPad 機能設定プログラムを使用します。

OS/2 または Windows を使用しているときは、「ThinkPad 機能設定」ウィンドウで赤外線アイコンをクリックします。

DOS を使用しているときは、コマンド・プロンプトで PS2 ? と入力します。Enter を押すと詳細情報が表示されます。

通信に関する考慮事項

赤外線ポートで通信するときは次のことを確認してください。

ThinkPad の赤外線ポートと他のコンピューターの赤外線ポートの間で通信するときは、通信可能な距離で各赤外線ポートが互いに向かい合っていることを確認します。

ThinkPad と別の ThinPad またはシステム間で通信する場合は、両方で同じアプリケーションを実行する必要があります。詳細はアプリケーションに付属の説明書を参照してください。

赤外線ポートを使用する通信アプリケーションは、一度に 1 つだけ実行してください。

次の場合は通信可能な距離が短くなる場合があります。

- 通信相手のシステムが ThinkPad と異なるモデルである場合。
- 周囲から光の影響がある場合。直射日光やインバーター蛍光灯のもとでは、赤外線通信を行わないことをお勧めします。
- 赤外線ポートが、他の通信ポートと直接向かい合っていない場合。

赤外線を利用したワイヤレスAV機器（赤外線ヘッドホン、赤外線マイク等）が近くにある場合は、ワイヤレスAV機器に雑音が入ったり、ThinkPad の赤外線通信ができなかったりします。

Windows 95 用赤外線通信デバイス・ドライバーの導入

TranXit for Windows をサポートする Windows 95 用赤外線通信デバイス・ドライバーはアプリケーションに含まれています。

Windows 95 用赤外線通信デバイス・ドライバーを導入する方法は次のとおりです。

- 1 Windows 95 を始動します。
- 2 ThinkPad 赤外線通信ディスクをディスク・ドライブに挿入します。
- 3 MS-DOS コマンド・プロンプトを開きます。
- 4 A:UINSTALL と入力し、 Enter を押します。画面の指示に従います。
- 5 「導入オプション」パネルで、**Windows ThinkPad** 赤外線通信ドライバーの導入を選択し、 Enter を押します。

注: 赤外線通信機能は使用する前に使用可能にする必要がある場合があります。赤外線通信装置は省略時設定が使用不可になっていることがあります。赤外線通信装置を使用可能にする前にリソースの競合が起きないことを確認します。

Windows V3.1 用赤外線通信デバイス・ドライバーの導入

TranXit for Windows をサポートする Windows V3.1 用赤外線通信デバイス・ドライバーはアプリケーションに含まれています。

Windows V3.1 用赤外線通信デバイス・ドライバーには 2 つのタイプがあります。

TranXit for Windows アプリケーションのシンプル・ファイル転送をサポートするための赤外線通信デバイス・ドライバー

IBM Internet Connect for Windows、Windows for Workgroups 3.1 や Netware DOS Client のようなネットワーク・ソフトウェアでネットワークをサポートする赤外線通信デバイス・ドライバー

この 2 つのドライバーは同時に稼働することはできないので、実際に使用するドライバーを導入する必要があります。

前者は **TranXit for Windows** に含まれていて、TranXit for Windows を導入すると導入されます。別々に導入する必要はありません。後者は赤外線通信機能設定ドライバー II ディスケットに含まれていて、各ネットワーク・ソフトウェアを導入するときに、Network Device Interface Specification Version 2 (NDIS2) に準拠するネットワーク・アダプター・ドライバーか ODI 準拠ネットワーク・アダプターとして導入されます。導入の手順については、それぞれのネットワーク・ソフトウェアの説明書を参照してください。赤外線通信機能設定ドライバー II ディスケットの README ファイルに追加情報が入っています。

OS/2 用赤外線通信デバイス・ドライバーの導入

OS/2 用赤外線通信デバイス・ドライバーは **TranXit for OS/2** アプリケーションに含まれています。

注: **TranXit for OS/2** は ThinkPad 560E のパッケージには含まれていません。

OS/2 用の赤外線通信のデバイス・ドライバーには 2 つのタイプがあります。

TranXit for OS/2 アプリケーションとともに単純ファイル転送をサポートする赤外線通信デバイス・ドライバー

IBM Multi-Protocol Transport Service (MPTS) ソフトウェアとともに赤外線通信リンク上のネットワークをサポートする赤外線通信デバイス・ドライバー

この 2 つのドライバーは同時に稼働することはできないので、実際に使用するドライバーを導入する必要があります。

前者は **TranXit for OS/2** に含まれていて、TranXit for OS/2 を導入するときに導入されます。TranXit for OS/2 とドライバーを別々に導入する必要はありません。後者は赤外線通信機能設定ディスク II に含まれています。OS/2 Warp Connect、OS/2 Warp Server、または TCP/IP for OS/2 に添付される MPTS ネットワーク・ソフトウェアを導入し、構成するとき NDIS2 (Network Device Interface Specification Version 2) として導入します。導入手順については各ネットワーク・ソフトウェアの説明書

赤外線通信機能を使う

を参照してください。赤外線通信機能設定ドライバー II ディスケットに追加情報が入っています。

CONFIG.SYS ファイルを次のように変更します。

```
C:¥OS2¥DLL¥IRDD.SYS
```

↓

```
C:¥OS2¥DLL¥IRDD.SYS 3F8 4
```

ここで、3F8 は I/O ポート・アドレスで、4 は IRQ です。

SVGA ビデオ・モードの使用

ThinkPad には、解像度が 800 x 600 の SVGA ビデオ・モードをサポートする LCD が付いています。より高解像度をサポートする外付けモニターを接続することによって、情報を高解像度で表示させることも可能です。次の表は、ThinkPad または外付けモニターで使用できる、各種のディスプレイ・モード (解像度と色数) を示します。この表を使用して、表示モード (**LCD**、**CRT**、または **Both**) を設定してください。

注: オペレーティング・システムを導入する場合、SVGA モードを使用するためには、ThinkPad に同梱のディスプレイ・ドライバーを導入する必要があります。

出力情報を LCD、または LCD と外付けモニターの両方 (**LCD** または **Both**) に表示する場合には、解像度および色数は下記のどれかに設定することができます。

解像度	サポートされる色数
640 × 480	256 色、65,536 色 および 16,777,216 色
800 × 600	
1024 × 768 (バーチャル・スクリーン*1)	256 色および 65,536 色
*1: バーチャル・スクリーンは OS/2 版、Windows 3.1 版でのみサポートしています。	

出力情報を外付けモニター(**CRT**) に表示する場合には、解像度、リフレッシュ・レート、および色数は下記のいずれかに設定することができます。

解像度	リフレッシュ・レート	サポートされる色数
640 × 480	256 色、65,536 色、および 16,777,216 色	60Hz
		72Hz
		75Hz
		85Hz
800 × 600	256 色、65,536 色、および 16,777,216 色	60Hz
		75Hz
	256 色および 65,536 色	85Hz
1024 × 768	256 色および 65,536 色	60Hz
		75Hz
		43.5Hz (インターレース)
1280 × 1024	256 色	60Hz
		43.5Hz (インターレース)

Windows 95 での画面解像度と色数の変更

Windows 95 では次の方法で画面解像度と色数を変更することができます。

コントロール・パネル上で画面アイコンを選択する。

ThinkPad 機能設定を使用する。

ThinkPad 機能設定プログラムは色数の即時変更はサポートしませんが、解像度は即時変更が可能です。色数と画面解像度を同時に変更した場合は、現在の画面の解像度が一時的に指定したも以外になることがあります。

たとえば(CRT を接続している場合)、現在の解像度 1024 × 768 で、色数 64,000 の場合、解像度 1280 × 1024、色数 256 のボタンを押した場合、解像度 640 × 480、色数 64,000 になります。これは、ThinkPad を再始動したとき、これらの変更が有効になるからです。

注: 異なる色数を選択したい場合は、Windows 95 のコントロール・パネルを使用します。

ハード・ディスク・パスワード

ハード・ディスク・パスワードは、ThinkPad 560E に新しく追加された機能です。

ハード・ディスク・パスワードは、ハード・ディスク・ドライブに格納された情報の保護に役立ちます。ハード・ディスクを ThinkPad から取り外しても、ハード・ディスク・パスワードがなければ、そこに格納された情報をアクセスできません。

ThinkPad の電源を入れると、ハード・ディスク・パスワード・プロンプトが画面に表示されるので、パスワードを入力します。

注: ハード・ディスク・パスワードはハード・ディスク・ドライブに格納され、始動パスワードは ThinkPad の不揮発性メモリーに格納されていません。

レジューム機能でのハード・ディスク・パスワードの使用:

ハード・ディスク・パスワードを設定すると、レジューム・タイマーがタイムアウトしたり、あるいは着信呼出しが起きてもレジューム機能は作動しません。

ハード・ディスク・パスワードと一緒にレジューム機能を使用するには、始動パスワードとハード・ディスク・パスワードに同じパスワードを設定します。

注意

ハード・ディスク・パスワードを始動パスワードと一緒に使用する:

ハード・ディスク・パスワードを始動パスワードと同時に使用できません。ThinkPad の電源を入れると、最初に始動パスワード・プロンプトが表示され、次にハード・ディスク・パスワード・プロンプトが画面に表示されます。正しいパスワードを入力します。

ハード・ディスク・パスワードを始動パスワードと同じに設定すると、始動パスワード・プロンプトだけが画面に表示されます。正しいパスワードを入力します。ハード・ディスク・パスワード・プロンプトは表示されません。

ハード・ディスク・パスワードの設定

ハード・ディスク・パスワードの設定手順は次のとおりです。

1 Easy-Setup を始動し、Password を選択します。

Easy-Setup を始動するには、F1 を押しながら、ThinkPad の電源をオンにします。

2 HDD をクリックします。

注: ユーザーズ・ガイドには、Power-On アイコンについてだけ説明がありますが、HDD アイコンも Power-On アイコンと同じパネルに表示されます。

3 ハード・ディスク・パスワードを入力して、Enter を押します。

パスワードには、7 文字以内の任意の文字の組合わせを使用できます。任意の文字と数字 (A から Z、0 から 9) を組み合わせて使用してください。大文字と小文字 (たとえば A と a) は区別されません。

注: 間違ったキーを入力した場合は、Backspace で消去してから、正しいキーを入力します。

4 確認のためもう一度ハード・ディスク・パスワードを入力してから、Enter を押します。

—— ハード・ディスク・パスワードは忘れないでください! ——

パスワードを書き出して安全な場所に保管してください。

ハード・ディスク・パスワードを忘れた場合、パスワードをリセットしたり、ハード・ディスクのデータを回復する方法はありません。IBM 特約店も、IBM 販売代理店もハード・ディスク・ドライブを使用可能にすることはできません。

一度設定したハード・ディスク・パスワードを Easy-Setup から変更したり消去することはできません。パスワードの変更や消去は、ThinkPad の電源をオンにしたときに表示されるパスワード・プロンプトで行ってください。36ページの『ハード・ディスク・パスワードの変更』または 38ページの『ハード・ディスク・パスワードの消去』を参照してください。

ハード・ディスク・パスワードの入力

ハード・ディスク・パスワードを設定する場合、次の時点でハード・ディスク・パスワード・プロンプトが表示されます。

ThinkPad の電源をオンにしたとき。

ThinkPad がサスペンドまたはハイバネーション・モードから通常の動作に戻ったとき。

パスワード・プロンプトが画面の左上の隅に表示されたら、次のようにします。

1 ハード・ディスク・パスワードを入力します。

キーを押すたびに、 の記号が表示されます。

パスワードを入力するときは指をキーからすばやく離すようにしてください。1 つのキーを長く押し続けると、同じ文字が繰り返し入力されてしまいます。

注: パスワードを入力した後で、 スペース を押さないでください。このキーを押すと、パスワードが消去されます。

2 Enter を押します。

正しいパスワードを入力すると、**OK** と表示され、ThinkPad は通常の動作を開始します。

誤ったパスワードを入力すると、**X** が表示されます。正しいパスワードを入力してください。

パスワードを 3 回間違えた場合は、ThinkPad の電源をオフにして 5 秒以上待ってから、電源をオンにして入力し直してください。

ハード・ディスク・パスワードの変更

ハード・ディスク・パスワードの変更手順は、始動パスワードと同じに設定されているかどうかにより異なります。

ハード・ディスク・パスワードが始動パスワードと同じ場合:

1 ユーザーズ・ガイドの“始動パスワードの消去”の手順に従って、パスワードを消去します。

この操作は、ハード・ディスク・パスワードと始動パスワードの両方を消去します。

- 2 Easy-Setup で、新しいハード・ディスク・パスワードを設定します。35 ページの手順を参照してください。
- 3 始動パスワードが必要な場合は、Easy-Setup で設定します。

ハード・ディスク・パスワードと始動パスワードが異なる場合、または始動パスワードが設定されていない場合:

- 1 ThinkPad の電源をオフにし、5 秒以上待ってから、もう一度オンにします。
- 2 始動パスワードを設定している場合、これを入力してから、Enter を押します。
- 3 ハード・ディスク・パスワード・プロンプトが表示されたら、現在のハード・ディスク・パスワードを入力します。次に、スペース を押します。
- 4 新しいパスワードを入力し、スペース を押します。
使用できるのは 7 文字までです。
- 5 確認のためもう一度新しいパスワードを入力してから、Enter を押します。

これらの手順は、次のようにまとめることができます。

現在のパスワード(スペース)新パスワード(スペース)新パスワード(Enter)

ハード・ディスク・パスワードは忘れないでください。

パスワードを書き出して安全な場所に保管してください。

ハード・ディスク・パスワードを忘れた場合、パスワードをリセットしたり、ハード・ディスクのデータを回復する方法はありません。IBM 特約店も、IBM 販売代理店もハード・ディスク・ドライブを使用可能にすることはできません。

ハード・ディスク・パスワードの消去

ハード・ディスク・パスワードの消去手順は、始動パスワードと同じに設定されているかどうかにより異なります。

ハード・ディスク・パスワードが始動パスワードと同じ場合:

- 1 ユーザーズ・ガイドの“始動パスワードの消去”の手順に従って、パスワードを消去します。

この操作は、ハード・ディスク・パスワードと始動パスワードの両方を削除します。

- 2 始動パスワードが必要な場合は、Easy-Setup で設定します。

ハード・ディスク・パスワードと始動パスワードが異なる場合、または始動パスワードが設定されていない場合:

- 1 ThinkPad の電源をオフにし、5 秒以上待ってから、もう一度オンにします。
- 2 始動パスワードを設定している場合、これを入力してから、Enter を押します。
- 3 ハード・ディスク・パスワード・プロンプトが表示されたら、現在のハード・ディスク・パスワードを入力します。次に、スペース を押します。
- 4 Enter を押します。

これらの手順は、次のようにまとめることができます。

現在のパスワード(スペース)(Enter)

外付けモニターの使用

外付けモニターを接続し、次のビデオ・モードを設定した場合、何らかの影響を受けたり、外付けモニターの解像度が低くなったりします。

解像度 640×480 で、色数 16,777,216

解像度 800×600 で、色数 65,536

解像度 1024×768 で、色数 256

この問題を解決するには、ThinkPad 機能設定プログラムを使用して次の設定を変更します。

- 1 リフレッシュ・レートを変更します。表示装置の画面が修正されたかどうか確認します。問題がある場合は、次のステップに進みます。
- 2 色数を変更します。ThinkPad を再始動します。画面が修正されたかどうか確認します。問題がある場合は、次のステップに進みます。
- 3 画面の解像度を変更します。ThinkPad を再始動します。画面が修正されたかどうか確認します。

その他の情報

電源スイッチの使用

電源スイッチをオフにした後で、電源スイッチをもう一度オンにする場合は、5 秒以上待ってください。

ディスプレイ機能の変更

ユーザズ・ガイドの付録“製品仕様”の“機能”の中の、“ディスプレイ”の項目の“ DSTN カラー LCD”で、次の行を置き換えます。

LCD および外付けモニターで、最大 800 x 600 の解像度

これを次の 2 行に置き換えます。

LCD で最大 800 x 600 の解像度

外付けモニターで最大 1024 x 768 の解像度

OS/2 バージョン 4.0 での OS/2 Fax(FAXWORKS) の使用方法

外付けファックス・モデムを使用してファックスを送信する手順は次のとおりです。

- 1 FAXWORKSをオープンします。
- 2 設定をオープンします。
- 3 「モデムの種類」タブを選択します。
- 4 Use HW FIFO (16550A)をクリックします。

Windows95 で ATA カードを使用したサスペンドまたはレジューム・モードへの移行

Windows 95 を実行中に、ATA カードを使用してサスペンドまたはレジューム・モードに移行しようとしたときに問題が発生した場合、次のことを実行してください。

- 1 Windows 95 タスク・バーのCardアイコンをクリックし、使用しているカードを停止します。
- 2 メッセージ“このデバイスは安全に取り外せます”が表示されたら、ThinkPad をサスペンドにします。

赤外線通信機能の変更

ThinkPad 560 のユーザーズ・ガイドの「ThinkPad を操作する」の章の「赤外線通信機能を使う」の第 2 パラグラフは ThinkPad 560E では次のように変更されました。

赤外線通信機能は 4.0 Mbps までのデータ転送速度で IrDA**モードをサポートします。ThinkPad はもう一つの ThinkPad、または他の IrDA 規格に準拠したシステムなど、互換性のある赤外線ポートをもつ装置と通信することができます。

注: Mbps: メガビット/秒

IRQ 値

赤外線通信ポートの IRQ 値は工場出荷時に 4 に設定されています。この値を 3 に設定したり、使用不可にすることができます。

メモリー容量の増設に関する変更

*ThinkPad 560 ユーザーズ・ガイド*の「オプションの取付けと取外し」の章の「メモリーの増設」の2つめの段落は ThinkPad 560E では次のように変更されました。

3種類の異なった容量の DIMM (8MB、16MB、および32MB) が使用可能です。DIMM は ThinkPad の裏面にあるメモリー・スロットに直接挿入することができます。ThinkPad のメモリー容量は 48MB (16MB のベース・メモリーおよび 32MB の DIMM オプション) まで拡張することができます。

DIMM 取付けに関する変更

*ThinkPad 560 ユーザーズ・ガイド*の「オプションの取付けと取外し」の章の「メモリーの増設」の「DIMM の取付けと取外し」のステップ 9 のサブステップ a) および b) は ThinkPad 560E では次のように変更されました。

- a) DIMM メモリー・サイズをベース・メモリー・サイズ (16000KB) に加えて総メモリー・サイズをキロバイト (KB) で計算します。

たとえば、16MB DIMM を取り付けた場合、総メモリー・サイズを次のように計算します。

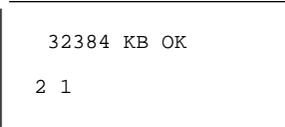
$$16(\text{MB}) \times 1\ 24(\text{KB}) + 16\ (\text{KB}) = 32384(\text{KB})$$

- b) Easy-Setup を始動し、画面の左上部に表示されるメモリー・サイズを確認します。



32384 KB OK

メモリー・カウントの下にエラーコード 201 が表示された場合、ThinkPad の電源を切り、94 ページに戻って、DIMM を取り付け直してください。



32384 KB OK

2 1

メモリーの変更

*ThinkPad 560 ユーザーズ・ガイド*の付録「製品仕様」の「機能」の「メモリー」は ThinkPad 560E では次のように変更されました。

組込み: 16MB

オプション: 8MB、16MB、および 32MB DIMM

サスペンド・モードの使用

ThinkPad 560E は、ほとんどのオペレーションでサスペンド・モードをサポートします。しかし、次の場合はサスペンド・モードを使用すべきではありません。

オーディオ・フィーチャーを使用するとき

DOS ゲームを使用するとき

DSTN モデルに対する制限

ご使用のコンピューターが DSTN モデルであり DOS テキスト・モードを使用している場合、スクリーン拡張機能は常に使用可能であり、ThinkPad 機能設定プログラムや PS2 コマンドにより使用不可にすることはできません。

注: DOS グラフィックス・モードでは、スクリーン拡張機能を使用可能にしたり、使用不可にしたりできます。